

第40回 全日本教職員連盟  
教育研究大会（宮崎大会）提案資料

【第3分科会 道徳教育】「特別の教科 道徳」を要とする豊かな道徳性を育む心の教育  
集団の一員として、課題を自分ごとと捉えることができる道徳心の育成  
～日常から多面的・多角的な見方を養う授業の工夫～



徳島県教職員団体連合会  
徳島市川内北小学校 川邊 晃

## I 研究の概要

### 1 研究主題

集団の一員として、課題を自分ごとと捉えることができる道德心の育成  
～日常から多面的・多角的な見方を養う授業の工夫～

### 2 主題設定の理由

学習指導要領解説特別の教科道德「第1章 総説 1 改訂の経緯」には、「道德教育は人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、人が互いに尊重し協働して社会を形作っていくうえで求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育むとともに、人としてよりよく生きるうえで大切なものは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められる」と述べられている。

情報化社会では、AI機器の普及により、より早く、どのような環境でも情報を得ることが可能になった。しかし、子供たちが膨大な情報を取捨選択し、自分にとって、まわりにとって、正しい選択なのか考えられる規範意識は、常に変化しうるものである。多面的・多角的な考えを共有し、自分の考えを導き出すためには、互いに考え、深めていかなければならない。そして、情報機器やツールを用いながら人と人との関わりを持ち続けることが重要である。

道德教育は、「特別な教科 道德」を要として学校の教育活動全体を通して行うものであり、児童の発達の段階を考慮して適切な指導を行わなければならない。豊かな道德性を育成するためには、子供たちが様々な課題に対し、多面的・多角的に考え、「自分ごととして考える」「集団の一員として考える」活動が大切になる。子供たちが自己を見つめ、集団の一員として主体的に活動し、様々な人たちと手を取り合い、新しい価値を生み出せるような自己の取り組み、集団としての取り組みを提案したい。

### 3 研究の目標

日常から多面的・多角的な見方をもって考え方を深める道德科の授業を推進することにより、自分ごととして、集団の一員として考えられる道德心を育てる。

### 4 研究の仮説

- (1) 考え議論する場を効果的に設定し、児童が対話したり協働したりしながら、意見や考えを共有し合える手立てを工夫すれば、自分の考えや相手の考えが明確になり、多面的・多角的な見方をもって考えを深められる児童が育つだろう。
- (2) 共に学んだことや議論したことを、自分たちの生活や自分のこと、身近なこととして話し合うことで、児童の内面に根差した道德心を養うことができるであろう。

## II 研究の実際

### 1 児童が自分たちの生活で起こりうる場面があり、共感しやすい単元選び

#### (1) 児童の実態と単元設定の理由

・本クラスは、男子が11名、女子が4名といった人数で、運動部に所属している児童と、そうでない児童が明確に分かれている。活発に外で遊ぶ姿は見られるが、一部の児童になってしまい、運動が苦手な児童は自分から声をかけにくい場面が見られた。外遊びが苦手な児童の声には、「みんなと遊ぶのは好きだけど、苦手だから声をかけづらい」「楽しく遊べるか不安がある」という意見があった。一見楽しくみんなが活動しているように見えても、児童一人一人の考えは異なっていて、思いや考えを共有する場面がなかった。そこで、教材の第5学年「ドッジボールを百倍楽しくする方法(光文書院小学道徳「ゆたかな心」)」を選定し、児童の考えを共有し、よい友達、よいクラスとはどんなクラスか考え、それに向けて意見を出し合えるようにした。

#### (2) 本単元の内容項目

・「B 主として人との関わりに関すること」の「友情,信頼」である。児童には本単元を通して、互いのよさに気づき、それを認めてよりよくなるとういう同じ思いをもつことで、友達関係が深まることを主題構成の理由としている。

#### (3) 本単元のねらい

○男女の隔てなく相手の考えを尊重し、よさを認め合って、よりよい友達関係を築いていこうとする

・互いのよいところを認め、相手の考えを取り入れることで、よりよい友達関係が築けることが分かる (理解,判断力)

・友達どうしが互いに認め合い,支え合うことで友情を深めた姿によさを感じる (心情)

・自分の周りにいる友達とよりよい関係を築いていこうとする (実践意欲と態度)

(4) 展開例

	学習活動	主な発問と予想される 児童の意識	指導上の留意点 (●評価)
導入 10分	○「よい友達」とは、どのような友達か考える。	○「よい友達」とはどのような友達でしょうか。 ・助け合える友達 ・仲良く遊べる友達	○友達に関わるテーマを出すことで、観点をもって教材を読ませる。
よりよい友達関係をつくるには、どうすればいいだろう。			
展開 25分	○「ドッジボールを百倍楽しくする方法」を読んで、よりよい友達関係について考える。  ○自分たちのクラスについて考え、自分たちでできることを話し合う。	○「わたし」たちのクラスは、何が変わったのでしょうか。 ・男子と女子が話し合いをするようになった。 ・お互いがよいところを見つけた。 ○このクラスは、みんなはどう思っていますか。 ・仲がよいクラス。 ・活発なクラス。 ・全員とはまだ話し合っていない。 ○よりよい友達関係を築いていくために、自分ができることはありますか。 ・ドッジボールのルールをみんなが楽しめるようにする。 ・優しく声をかけるようにする。	○友達が変わっただけでなく、「わたし」の見方が変わったことで友達のよさが見えるようになったこと、みんなで話し合おうとしたことに気付かせる。 ●互いのよさを認め、相手の考えを取り入れることで、よりよい友達関係が築けることが分かったか。
終末 10分	○今日の学習で学んだことを自分の言葉でまとめる。	○「よりよい友達関係」について本時で学んだことはどんなことですか。また、これからの友達関係にどのように生かしますか。 ・みんなの考えをちゃんと聞いて、仲良く遊びたい。 ・自分だけでなく、みんなが楽しいと思えるクラスにしていきたい。	○黒板の言葉を使うように助言し、自分だけではなく友達の学びも生かして自分の学びとしてまとめられるようにする。 ●自分も周りにいる友達とよりよい関係を築いていきたいという意欲をもてたか。

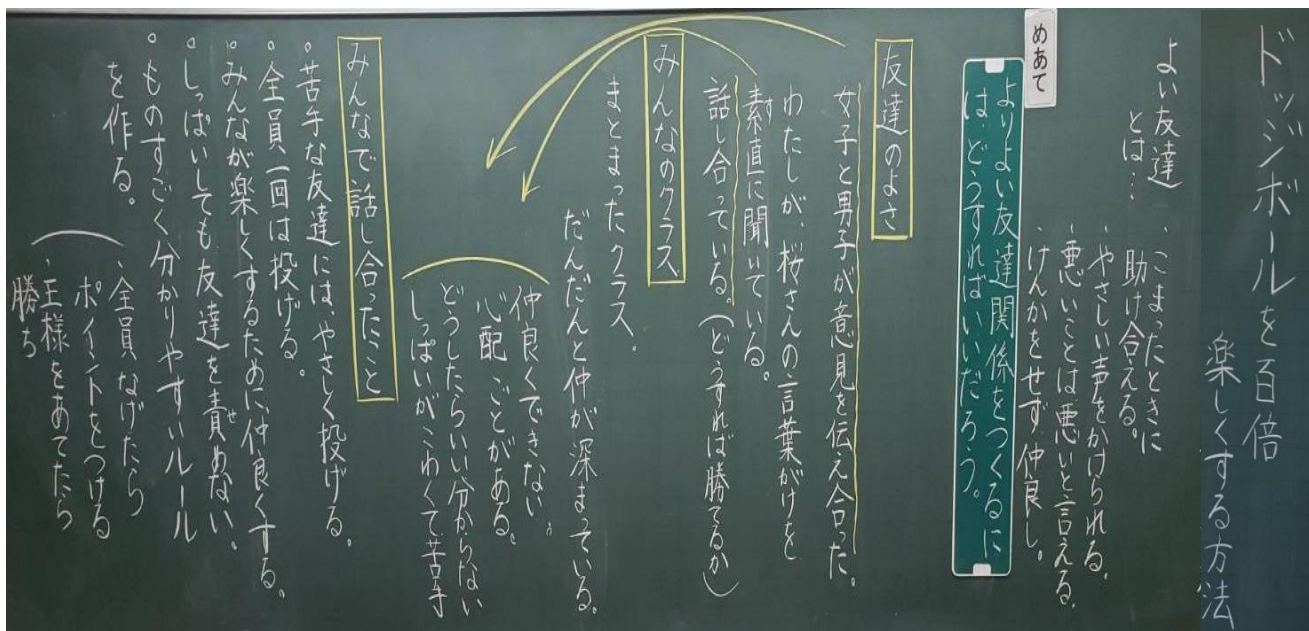
## 2 多面的・多角的に考え、自己を見つめる指導の工夫

### (1) 自分や友達のかえや、クラスの「今」を知る問いかけ

- ・単元に入る前に、児童への発問として「よい友達とはどのような友達ですか」と投げかけた。児童の意見には、
  - 困ったときに助け合える友達
  - やさしい声をかけられる友達
  - 悪いことは悪いといえる友達
  - けんかをしないで仲良くする友達

といった意見が出た。ドッジボールの内容であることも知っている児童もいて、比較的和やかな雰囲気導入が行われたが、「みんなは、今出た意見のような友達になれていますか」と聞くと、1割の児童が手を挙げなかった。「クラスで遊ぶドッジボールは、みんなが楽しめていますか」と聞くと、同様に手が挙がらない児童が4名いた。「さまざまな考えがあることは、それだけ大切な思いがあると思います。今日は、みんなの考えや思いをみんなで言葉にして、聞いて、どうしたらよい友達になれるか、そしてどうしたらもっといいクラスになるか考えていきたいと思います」と伝え、本単元に入った。

### (2) 異なる立場や考えを受け止める板書づくり



・単元の内容では、ドッジボールが上手になるために女子児童の意見を男子児童が受け入れ、共に練習したり話合ったりする中で信頼関係が生まれていく。児童へは、「このクラスでは、どのような友達のよさがありましたか」と発問した。

- 女子と男子が意見を伝え合っていた
- わたしが、桜さんの言葉かけを素直に聞いている
- みんなが駿くんを信頼している
- 話し合っている

次に「みんなは、このクラスはどう思いますか」と聞くと、

- まとまった素晴らしいクラス
- だんだんと仲が深まっている
- わたしにはできないと思う

といった意見が出てきた。ここで、児童は少し戸惑っていたが、「わたしはそんなに運動が得意じゃないし、みんなに迷惑をかけるのがいやで、どうしたらいいかわからないです」と答えた。この児童の意見から、まだ発言していなかった児童が、「ぼくもドッジは苦手だから、〇〇さんの気持ちは分かります」や「みんなと楽しくしたいけど、失敗するのがこわくて苦手です」などの意見が出てきた。正直な児童の思いを板書に記すことで、単元の内容を通して改めてクラスの課題が明確になった。考えを発表してくれた児童をみんなで受け止め、そこから共感できる児童の声が出てきたことで、今一度自分自身やクラスでできることに向き合うきっかけが生まれた。

### (3) 集団の一員として、課題を自分ごとと捉えられる話合いの場を設ける

・最後の児童の振り返りシートには、「〇〇さんがそこまで悩んでいたことが分からなかった。もっとやさしく伝えたいです」といった言葉が書かれていた。改めて友達の内面に触れて、気付きを得た児童もいれば、同じ考えに共感できた児童もいて、児童の発表が多くなっていった。よりよい関係になるために、楽しいドッジボールができるためにできることを話し合う場を設けた。児童の意見には、

- 苦手な友達には、ボールをやさしく投げるルールを作る
- 必ず全員が一回投げられるようにする
- みんなが楽しくドッジができるように仲良くする
- 失敗しても友達を責めないようにする
- ものすごく分かりやすいルールを考える

などといった意見が出てきた。クラスの課題をみんなで共有し、解決するためにできることを考え、具体的なルール作りが意見として出てきた。また、友達に対する思いやりの言葉や、今までの行動を改めようとする児童の意見が振り返りシートで見られた。





### III 成果と課題

1 考え議論する場を効果的に設定し、児童が対話したり協働したりしながら、意見や考えを共有し合える手立てについて

(1) ドッジボールの単元を扱うことで、集団の一員として、自分ごととして考えやすい内容であった。「わたし」のクラスと自分たちのクラスを比べ、良い部分だけでなく、課題に向き合おうとした児童の言葉を板書に書いたことで、意見や考えが多く出てきた。一人一人の意見を受け止めることで、友達の新たな一面を知ることができたと振り返りシートに書く児童がいた。

(2) 課題としては、ドッジボールのルールを考えることに重点をおいて考えてしまう児童がいた。今の自分はどうなのか、そこからどう考えるか、行動していくかといった自分自身の友達関係の向き合い方に視点を置いて指導していきたい。

2 共に学んだことや議論したことを、自分たちの生活や自分のこと、身近なこととして話し合うことについて

(1) 日常生活でも、男女の隔てなく接しようとする姿や、運動が苦手な友達に対してみんなで優しく伝えたり、声を掛け合ったりする姿も見られるようになってきた。

新たに作ったルールで、みんなでドッジボールをする姿が見られた。慣れないルールで戸惑う場面も見られたが、それでもみんなで楽しくしようとする姿や笑顔が見られ、充実した時間を過ごしていた。帰りの会では、今日のドッジ



ボールは楽しかったなどの感想を発表する児童がいた。児童の内面に根差した「友情、信頼」といった道徳心を深めるきっかけにもなった。

- (2) 課題としては、男子の比率が大きいため、どうしても意見が強く偏ってしまう傾向がある。みんなが話し合い、みんなが平等に意見を出し合える場は教育活動全体を通して行わなければならない。集団の一員として、課題を自分ごとと捉えることができる児童を育てるために、まずは友達の意見を聞くことや、受け入れてもらえる安心したクラスづくりをさらに目指していきたい。

#### IV 中学校への段階を踏んだ道徳教育を目指して

##### 1 豊かな道徳性を育むためにできること

豊かな道徳性を育むためには、主体的・対話的で深い学びを実現しなければならない。特に注目すべきなのは、「対話」だと考える。道徳教育では、生活の様々な場面で、今の自分、自分が思う「もう一人の自分」との対話が重要になってくる。自分は何を考えているのか、そして自分はどのように考えているのかを授業の中で明確化していく。対話を通して、重点項目、内容を深めていく活動が中学校ではさらに求められてくる。

児童生徒の道徳心が養われるためにも、重点項目や内容の本質を知り、教師が研究修養に努めなければならない。児童生徒が考えを深めたり、相手の考えからいかに自分自身と向き合ったりする活動が道徳教育では必要である。

相手の意見を自分ごととして受け止め、今の自分と対話して自身の課題を見つける。今の自分を認めながら、さらけ出しながら、自分の良いところやできることを伸ばしていこうとする時間を設けることは、教育活動全体を通して行わなければならない。道徳教育を通して、関連的・発展的な指導ができるように今後も実践・尽力していきたい。